

講演会

# 森林ボランティアの 安全管理は甘すぎないか？



プロじゃないからこそ必要な自分と仲間を守るスキルとチーム運営



日時: 2023年3月25日(土)

13:30~16:30(13:00 開場)

場所: 豊田市足助支所2階会議室

内容

13:30 開会、趣旨説明

13:40 講演 | 水野雅夫(Woodsman Workshop)

15:50 深掘り対談 |

水野雅夫×山本薫久(おいでん・さんそん森林部会)

16:20 まとめ、閉会

2000年東海豪雨被害を機に矢作川流域では森林ボランティア活動が活発になり今や全国有数の密度とレベルを誇る地域になりました。豊田市での森林学校をはじめ、周辺でもチェーンソーによる間伐を前提とした講座がたくさんできました。また、木の駅プロジェクトなどで自らチェーンソーを握る山主も増えました。このような活動が盛んになる一方でボランティアの重大事故も増えています。木は年々太くなり危険度も増えています。

山仕事の安全管理には、プロも素人も関係ありません。しかも、ボランティアはプロと比べて実践から学ぶ機会が限られています。そのプロでさえ毎年多くの死亡事故や重大事故が後を絶ちません。

ではどうすればいいのでしょうか？

本講演会では、全国各地で林業のプロを相手に、安全で正確な林業スキルを教えることで定評のある水野雅夫さんを招き、ボランティアが習得すべき基本的な安全管理のスキルとチーム運営の考え方についてお話いただきます。さらに、とよた森林学校で創設以来間伐ボランティア養成に奮闘し続けてきたシゲこと山本薫久さんとの対談を通して、どうすれば地域の森と村づくりをケガや事故なく安全に進めていくことができるのかを考えます。

水野さんが一般向けに講演する貴重な機会となりますので、ぜひお誘い合わせの上、会場に足をお運びください。

運営

主催：矢作川森の健康診断実行委員会

協賛：矢作川水系森林ボランティア協議会、夕立山森林塾、木の駅会議、

(一社)おいでん・さんそん、矢作川流域圏懇談会、助成・豊田市林業振興会議(予定含む)

お申込み：スマホ・パソコンで下記または右QRより。(先着70名/切3/22)

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf4Edz\\_-](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf4Edz_-)

[87WlatoufWGiMZEnzyuXWSkR3\\_MkyG18TuoFROZIA/viewform](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf4Edz_-87WlatoufWGiMZEnzyuXWSkR3_MkyG18TuoFROZIA/viewform)

電話問い合わせ：090-9916-1546 (丹羽)



地球環境基金

Japan Fund for Global Environment

## 水野雅夫さん (Woodsman Workshop 代表)

1962 年名古屋市出身。マスコミの技術職を経て、1997 年に岐阜県郡上市の林業家に師事。2001 年 NPO 法人 Woodsman Workshop 設立、2017 年伐倒練習機 MTW-01 を発案・開発。現在は、年間百数十日の講師業に専念しており、最近では伐倒練習機を用いた技術指導のために日本全国を飛び回っている。



### ● 深掘り対談に向けて

水野さんは、現場森林技能者のリーダーを育成するトレーナーズトレーナーの第一人者です。その厳しさと安全へのこだわり、科学的な指導方法で多くのプロを養成してきました。対談の山本シゲさんはとよた森林学校の間伐ボランティア講座などで初めてチェーンソー握る受講者がボランティアグループを結成し活動するまで伴走して皆から慕われてきました。プロとアマの違いこそあれ命は同じ、だれ一人ケガせずケガさせずに地域の森と村とが持続可能であるために今どうするか？どんな話になるのか、ワクワクドキドキ。

### 森林ボランティア宣言

歴史が証言している。  
いつでも、どこでも、文明を支えてきたのは、森だったのだ。

おーい！  
13万ヘクタールの、矢作川の森はだいじょうぶか。  
森の悲鳴が聴こえてこないか。  
荒廃しているのは森だけではない。  
森に支えられていた人の暮らし、文化、産業、人の心が荒廃しているのだ。  
もう手をこまねいてはいられない。  
千分の一でも、万分の一でもいいのだ。  
実際に森に入ろう。  
安全第一、効率におわれぬよう、しっかり学び、ていねいに作業しよう。  
私たち森林ボランティアは  
身をもって知った山の大切さ、山の愉しさを多くの都会の仲間に語ろう。

素人山主さんたちよ。  
あなたの山で、いっしょに山の手入れを学ぼう。  
できるところから作業していこう。  
そして、  
庭仕事のように、愉しんで山仕事を続けよう。  
一年に一週間も山に入れば、ずいぶんきれいになる。

山仕事のプロたちよ。  
この森を再生させるのは、あなた方の活躍にかかっている。  
山造り先生、島崎洋路は言う。  
「全国に20万人の真摯な『山守り』と、国家予算のごく一部が直接山造りに投入できれば、やつれが目立つ日本の山々も、再生は可能だ。」  
私たちは真摯なプロの『山守り』を応援する。

私たち森林ボランティアは、山と都会に幅広い森の応援団をつくり活動することを、ここに宣言する。  
2004年1月18日

